



Title	GLOCOLブックレット07 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 7
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/48288">https://hdl.handle.net/11094/48288</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability)をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携(コラボレーション)が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあってはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることとなります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター  
GLOCOLブックレット編集委員会

# フード・セキュリティと紛争

## Conflict and Food Security

松野明久・中川 理 [編]

### 目次

序言	栗本英世	003
はじめに	松野明久	005
気候変動が与える世界の安全保障政策へのインパクト	蓮井誠一郎	009
意味のコンフリクト		
フランスの農業近代化の経験から	中川 理	027
劣悪な国家ガバナンス状況下でのフード・セキュリティとセキリティ		
東アフリカ牧畜社会の事例	湖中真哉	039
占領下における水の使用権と農業問題		
パレスチナ・ヨルダン溪谷を例にして	清末愛砂	053
東ティモールにおける紛争とフード・セキュリティ		
植民地化、紛争、グローバリゼーションと食料問題	松野明久	063
復興開発と国際援助		
ARP(世銀/EC)による東ティモール・カラウレン川灌漑復旧プロジェクト	古沢希代子	079
先住民族の土地喪失と移民との紛争		
インド北東部の移動耕作民の事例より	木村真希子	095
民族対立によるフードセキュリティの課題とその解決の模索をめぐって		
バングラデシュ、チッタゴン丘陵(Chittagong Hill Tracts)の事例から	下澤 嶽	109